



岩の窪地^{くぼち}に集合する貝殻



マガキガイ^{かいがら}の貝殻

ヤドカリの貝殻干し？

快晴の日に、干潮時の泡瀬干潟を散策すると、干潟上にある岩（琉球石灰岩）の表面に、多くの貝殻が集まっていることがある。写真は、マガキガイで、方言名でテラジャーやテジャラー、ティラジャーなどと呼ばれる食用ガイとして知られる貝である。潮干狩りでは、多くの人たちが採取する貝であり、岸近くには大量のマガキガイの貝殻が捨てられていることがある。まるで、貝塚である。しかし、写真の場合は少し違う。この場所は、満潮時には海中となる場所でもあり、このようにきれいに集合？するはずはないのである。

ひっくり返して見ても、中には何も入っておらず、空である。これは、海のヤドカリが集まって、貝殻干し（日光消毒）をしていると思われる。普段、海中で生活している生き物の賢い知恵を垣間見た気がした。